

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

と う う ん  
**稲雲**

**令和7年度 第10号**

令和7年9月12日発行

発行者：校長 田中 朗裕



## ○早朝からありがとうございました

8月30日（土）の朝6時から、今年度2回目のPTA親子奉仕作業が行われました。1～8年生の児童生徒と保護者の皆様に、早朝よりお集まりいただき、校庭周辺の除草作業をしていただきました。奉仕作業の後に「松明あかし」に向けた「茅刈り」を実施するため、今回は、9年生とその保護者の参加はなしとなりました。1時間という短い作業時間でしたが、たくさんの皆様にご協力いただいたおかげで、校庭や校舎周辺がとてもきれいになりました。これで児童生徒が、よい環境で2学期の生活や学習、運動をすることができるようになりました。参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。



## ○今年度もよろしく願っています

8月30日（土）から、今年度の「松明あかし」に向けた活動が始まりました。最初の活動として「茅刈り」を実施しました。とても暑い日でしたが、松明づくり協力会、日本工営、保護者の皆様のお力添えをいただきながら、約100人で茅を刈り、束ねる作業を行いました。生徒たちは一生懸命に活動し、無事に「茅刈り」を終えることができました。

また、9月2日（火）の6校時目には、「稲田学園松明づくり協力会」の会長様をお迎えし、9年生に「松明講話」をしていただきました。「松明講話」や「茅刈り」を通して、生徒たちは430年以上受け継がれてきた「松明あかし」の継承者の一員としての自覚を高めている様子でした。



## ○第2回の避難訓練を実施しました

9月1日（月）の3校時目に、第2回の避難訓練を実施しました。「防災の日」ということもあり、児童生徒に予告をせずに実施し、いざという時に自分で自分の命を守る力を高めてもらうことがねらいでした。児童生徒は安全に、そして真剣に避難することができました。全体会では、火災発生時の避難のしかたや注意点等について、係の先生の話に真剣に耳を傾ける姿も見られました。



## ○仲間の思いと一緒に、全力で走り切りました！

9月4日(木)に鳥見山陸上競技場周辺コースにおいて、支部駅伝競走大会が開催されました。9時から「女子の部」、10時15分から「男子の部」が行われました。史上一番暑い夏の間、毎朝練習を続けてきた選手たちは、自分が任された区間を全力で走り、仲間の思いの詰まった襷をつないでいました。そんな選手たちを真剣に応援する姿も印象的でした。結果は、女子の部12位、男子の部14位でしたが、生徒たちは、結果以上に大きなものを得て、大きく成長したと感じました。



## ○「秋華祭」に向けた活動が始まりました

本校の文化祭である「秋華祭」を10月17日(金)に実施します。例年土曜日に実施しておりましたが、週末をゆっくり家族で過ごしていただきたいという思いと、代休となる月曜日にお子様のために休暇を取るという保護者の皆様のご負担を軽減したいという思いから、平日の実施とさせていただきます。そして、9月1日(月)に秋華祭の各部門の打合せを実施し、「秋華祭」に向けた活動が始まりました。今年のテーマは、『青瞬(せいしゅん)』～一瞬の今を楽しもう～です。実行委員会や児童生徒会が中心となって、児童生徒が達成感や満足感を味わい、全員が感動できる「秋華祭」を創り上げていってほしいと思っています。



## ○「人権教室」を実施しました

9月9日(火)の3・4校時、1年生から3年生の各教室で「人権教室」を実施しました。人権擁護委員の3名を講師にお迎えして、「友だちのよさ」や「自分のよさ」、「一人一人が違っていい」ということについて考える授業をしていただきました。自分の「いいところ」や「好きなこと」が思い浮かばない友だちに「いいところ」を教えてあげる児童がたくさんいたことに、安心したり、嬉しい気持ちになりました。



### 随 想

### 「対話型 AI」について ～便利ツール？相談役？～

10代から60代の1,000人を対象にしたある調査によると、週に1回以上「対話型 AI」を使用する10代の割合は42%で、「対話型 AI」に求めることは、「自分の知らないことを教えてほしい」が41.1%、「相談に乗ってほしい」が41%、「アイデアを出してほしい」が40.5%ということです。中でも、「相談に乗ってほしい」と考える割合が、すべての年代の平均を大きく上回っていました。さらに、「知人に言いにくいことも気軽に相談できる」「悩みを否定しない」という理由から、「対話型 AI」に「愛着」をもち、友だちや家族に次ぐ「第3の仲間」にもなっているとのことでした。しかし、「対話型 AI」に、自分を否定されることがないため、自分に都合のよい方向に使用することで、リスクが高まるという報告もあるようで、「仲間」として使用することには、少し不安も感じます。「対話型 AI」の使用を否定するつもりではありませんが、心の通った本物のコミュニケーションの大切さも忘れないでほしいと思っています。